

生徒指導の機能を生かす国語科学習指導案

3年

1 題材 「カンジーはかせの音訓遊び歌（言語）」（国語科）

2 指導観

(1) 児童の実態

学級集団としてやる気のある雰囲気はできつつあるが、望ましい集団の構成要素である「触れ合いのある感情の交流（リレーション）」、「集団のルールの確立」共に不十分な状態である。

そこで、児童一人ひとりに目を向け、その児童のことを肯定的に受け止めることを基盤として、集団のルールを確立させていきたい。さらに、子ども達どうしがつながるよさを体感できるように意図的な活動を取り入れ、リレーションの育成を図りたい。その上で、集団の中に規範意識をしっかりと育て、生き生きした活動の中にも、みんながルールを守るこちさを感じられるような学級集団づくりをしたい。

(2) 教材について

本単元は〔言語事項・2時間扱い〕の小単元である。「音訓遊び歌」を題材としたカルタ作りやカルタ取り遊びをする中で、漢字の音・訓読みに対する理解を深めさせるのがこの教材のねらいである。

この単元の中に、児童が自ら規範意識を高めるための視点を取り入れていく。国語科のねらいにある「相手の話を大切に聞き、適切に表現し伝え合う力を養う」ことを具体化する中で、規範意識は不可欠な要素だからである。具体的には、友達の思いを受け入れながら意見を聞いたり、話し手の思いを引き出すような質問をするなど、交流しあうことを意図的に取り入れたい。これを「聴き合い活動」として位置づけ、学習を共にする友達の立場や考えを尊重・理解しながら、自分の考えを深めようとする「学び合う」活動を体験させることが、学級集団をよりよく高め、規範的な行いにつながると考える。

また、「聴き合う」ための規範を「認知面」（話を聞くことよさを理解）、「情意面」（相手を尊重する気持ち）、「行為面」（聞くときの態度・スキル）の3つの視点から意識し、高めていくように日常的に実践していく。

3 単元の目標

- 漢字の音・訓読みについて意識をもち、送りがなに注意して漢字を読んだり、書いたりすることができる。 （読むこと・書くこと）
- 音・訓読みを取り入れたカルタづくりや遊びを通して、まわりの人の意見を聞いたり、自分の考えを話し、交流しあうことで考えを深めることができる。 （話すこと・聞くこと）

4 生徒指導の視点に立った単元の工夫

- 自己存在感
グループでの活動の中で、自分の意見を聞いてくれる友達の存在を知ること、学級の中での自分の存在を実感し、安心したあたたかな気持ちになる心地よさを味わわせたい。また、自分のよさを言葉にして認められることで、自分に対して自信をもち、自己を肯定的にとらえることにつながるであろう。（情意面）
- 共感的人間関係
お互いが気持ちよく話ができる雰囲気にするために大切なこと（学級では「聞き上手」と呼んでいる）である「聞く」態度を育てたい。（態度面）
話す側の気持ちを知ること、真剣に聞くことが共感的人間関係をつくることにとって大切であることを実感させたい。（情意面）
- 自己決定
子ども達一人ひとりが考えをもち、それをもとにして話し合い、自他の考えのよさを取り入れて自己の考えとして決定させる。スムーズにいかない児童には、考える道筋を助言したり、まわりの友だちの意見を参考にさせたりして、自分の思いや考えを表現するように支援していきたい。そうすることで、学習内容の理解も深まると考える。（認知・情意面）

5 本時

平成19年11月27日（火）5校時 3年1組教室

6 本時の目標

- 漢字の音・訓読みを取り入れたカルタの読み札づくりを通して、人の意見を聞いたり、自分の考えを話したりして、相互に考えを深めることができる。
- 多様な考えを肯定的に受け止める活動を通して、規範を守り自他を尊重しあう態度・技能を育てる。

7 規範意識を高めるための本時授業の工夫

- 規範意識を高める本時の価値
本時では、一定のルールに従って、カルタの読み札を考える活動の中で、他者と交流する場面（聴き合い活動）を設定している。交流が自他の考えを深めるために機能するには、その場面での規範が重要な要素となる。規範意識を育てる3つの視点を意識させたい。特に、情意面・態度面が実践の場では重要であるので、これまでの聴き合い活動で学んだこと（問題点やその解決方法、具体的な方法・スキル）を生かして実践させたい。
- 自己存在感をもたせるための工夫
お互いが考えた読み札を発表し合い、受容されることで、自分のアイデアに自信がもてずいた子どもも安心することができる。そうした温かな雰囲気の中で相互に考えを交流し、伝え合い、読み札を満足いくものに改善していくことができると考える。自分のよさを言葉に出して認められることで自分に対して自信をもち、自己を肯定的にとらえることにつながるであろう。
- 評価の工夫
態度面・情意面について、「相手が元気になる聞き方振り返りカード」を活用して、一人ひとりの自己評価を行わせる。チェック項目3つ（相手に体を向ける・話す人を見る・あいづちをうつ）は態度面の評価であり、感想（うれしかったこと・よかったこと）は、情意面での評価とした。
この評価をグループや学級全体の場で発表し合うことで、個人としての思いを集団として共有することができる。そうすることで、集団をよりよく高めていくための行為の価値基準（規範意識）が育成されると考える。

8 本時指導の考え方

導入では、同じ漢字の音訓読みの入った音訓遊び歌をリズムに合わせて一斉に音読することで、心地よさや楽しさを味わわせたい。また、そのつくりのきまりを見つけさせる。

展開では、小グループに分かれ、教科書に例示されている読み札と取り札を使って、実際にかるた遊びを体験し、意欲を喚起させたい。その際、読み手や取り手の分担、ルールなど話し合わせる。

その上で、一人ひとりが音訓遊び歌を考え、かるた作りに取り組みさせる。その後、出来上がった歌を児童相互に読み合い、よさに気づかせたい。活動の中で、友だちの話を聞いたり、自分の考えを話したりする場面を設定し、互いの考えを交流させたい。

9 準備

音訓遊び歌本文掛け図、（拡大）カルタの読み札・取り札枠、カルタ例示用掲示物
振り返りカード

10 本時の展開




学習活動と内容	生徒指導の視点に立った支援と評価
<p>1 本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習のめあて】</p> <p>音訓遊び歌をリズムに乗って読んだり、読み札を自分で作ったりしましょう。</p> </div> <p>2 学習の進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文の音読 ○ 音訓遊び歌の作り方 ○ 読み札作り <p>3 音訓遊び歌について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ かるた遊びを体験 ○ リズムのよさ ○ 作り方（きまり） <p>4 読み札を作り、紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み札作り <ul style="list-style-type: none"> ・音訓遊び歌 ○ 読み札を相互に紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴き合い活動（聞き手・話し手の役割） ○ 読み札を完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・出されたアイデアをもとに改善 <p>○ 観点をもとに、聴き合い活動を振り返る。</p> <p>5 本時学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字には音読みと訓読みがある。 ・送りがなに注意して読んだり書いたりする。 </div> <p>6 次時学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時学習の内容を把握し、本時のめあてにつなげさせる。 ○ 漢字には音読みと訓読みがあることを想起させるためにカードを提示する。 <p>○ 活動の見通しをもたせ、意欲的に取り組ませるために学習の流れを提示する。</p> <p>○ 範読をし、漢字の読み方について指導する。</p> <p>○ リズムに乗り、声をそろえて読む心地よさを味わうために一斉読みをさせる。</p> <p>○ 教材として例示されているかるたを準備し、かるた遊びを体験させる。</p> <p>○ 音訓遊び歌の作り方のきまりを話し合い理解させる。（読み札と取り札を提示）</p> <p>○ 2つの読み方を組み合わせて、音訓遊び歌を考え、読み札を作らせる。</p> <p>○ お互いの歌を紹介し、よさを発表させる。 【自己存在感】</p> <p>○ 友だちの歌を聞いて、作り方の参考にさせる。 【自己決定】</p> <p>○ 聴き合い活動では、聞き手は気持ちが態度に表れるように心がけ、アイデアを引き出すように質問させる。 【共感的理解】</p> <p>○ 聴き合い活動の自己評価・感想を学級全体の場で発表し、よかったところを集団で共有させる。 【自己存在感】【共感的理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字の送り仮名に注意し、漢字を読んだり書いたりすることができたか。 ○ 友だちの考えをしっかりと聞き、いいところを見つけることができたか。

11 成果と課題

- 友達の話を聞く（聴く）活動は、機会をとらえて全教科・領域で設定することが大切である。相手の話を理解しようとする姿勢・態度は、他者理解を深め、さらには自他を尊重しようとする心情・態度を育てることにつながると考える。
- 友達の話をしっかりと聞き、それを受け入れる雰囲気が出てきたことで、話すことの技能も高まってきた。
- 聴き合い活動で、自分の思いをうまく表現できない相手から、話を引き出す聞き手の技能の育成はどうあればよいのか。

1 2 資料（聴き合い活動の様子と振り返りカード）

「あいてが元気になる聞き方」ふりかえりカード
 1月 28日 名前()




話をきくためのスキル	○・△・×
1 あいてに体をむける	 100
2 話す人を見る	 100
3 あいづちをうつ(うなづく)	 50

今日の感想(楽しかったこと・うれしかったこと・よかったこと)
 自分では思っているかたコトでも、友だちから見ると
 こんなにいいところって、たくさんあるんだと、とても
 分かりました。自分で気づいていないコトでも、
 人から見るとこんなにちかうコトがよくなって、よかったです!



○ 友達の話をしっかり聞くことが大切です。みんな真剣に聞こうとがんばっています。
 ○ 自分の話を聞いてもらおうと気持ちがいいね。みんなうれしそうです。

「あいてが元気になる聞き方」ふりかえりカード
 1月 26日 名前()

話をきくためのスキル	◎ ○・△・×
1 あいてに体をむける	
2 話す人を見る	
3 あいづちをうつ(うなづく)	

今日の感想(楽しかったこと・うれしかったこと・よかったこと)
 自分のいいところを人言われて、すごく気持ちがよくて、
 うれかったです。入いいところもしっかりきけたので、
 とてもよかったです!
 みんなは、わたしのことをしっかりみてもらえたのでよかったです!



<聴き合い活動について>